

保育者養成における音楽指導の一考察
— 幼稚園実習をとおして —

丸山 京子・仲野 悦子

A Study of Music Instruction in Preschool Education Training

Kyoko Maruyama • Etsuko Nakano

Summary

Through music instruction, we have studied the relationship between practicing and the production of music to discover future trends in practice methods and music guidance. We compare practice—the meaning of practicing, students' self-evaluation regarding practicing and music teaching in kindergarten and music the instruction of musical performance in college, and examine various methods that could be appealing in preschool training. As a result, through music practicing, preschool education majors learn what it's like to be a preschool student, what is required to become a successful preschool teacher, the relationship between teacher and preschool students, and the surprises and positive attainments preschool education majors can attain through practicing music.

Received Oct. 30, 1999

Key words: Practical training, music instruction

I. はじめに

平成元年に幼稚園教育要領、続いて翌年保育所保育指針が4半世紀ぶりに改訂された。さらに約10年経過した昨年と今年にかけて再び改訂がなされた。今回の改訂は、前回の要領や指針の内容を「おおむね幼稚園教育要領への理解が深まり、その趣旨を踏まえた教育の実現にむけた着実な実践が積み重ねられている」^{注1)}としている。

しかし「環境の構成や教師の役割などについて共通理解が不十分であり大きな差異が見られる」として改善を求められると同時に「21世紀を主体的に生きることができる人間を育成する」観点からの改善も要求されている。

少子化時代・情報化時代に生きていると言われる今の子どもたちに「生きる力」を育成するために保育現場は「幼児の主体的な遊びを十分に確保する」ことが何よりも必要とされ、それにともなった適切な環境構成を幼児の視点にたって、幼児一人一人の行動の理解と予測に

基づき計画的にすることが保育者の大切な役割としている。そして何よりも保育者自身が子どもたちの理解者・援助者という立場にあり、人的なかかわりとして担う役割は大きい。

また教育内容の改善として「健康な心と体の育成」、「道徳性の芽生え」を上げている。これにともない自然体験・社会体験の一層の充実をあげ、戸外で思いっきり体を動かして遊ぶ活動を積極的に取り入れたり、社会生活上のルールや道徳性を生活のなかで身につけるように援助することも大切だとしている。そして社会状況の変化にともなった指導方法に対応するために、現場の保育者はさまざまな研修が必要とされてきている。

このような動きの中で、保育者養成校としても保育者養成の見直しを余儀なくされ、カリキュラムについては一層の充実が要求される。そして実習に対する比重も今まで以上に重くなることはいがめない。

II. 目的

社会状況の変化にともない保育現場では多様な保育形態、多様な指導方法、多様な保育実践が求められている。保育者養成校としては学生に対して理論と実践の両面の効果的な指導の充実と保育現場との連携がますます重要となってきた。

養成校と保育現場とのかかわりの中で一番大きなかかわりは実習である。実習をより実り豊かにするためには、まず学生自身の意識を高めること。実習に対する目的意識をしっかりと認識させ、事前の教材準備などをした上で初めて実習する態勢が整う。実習した結果、保育者としての理解、子どもの理解や自己の実習反省点が多く生まれる。

今回、幼稚園実習後にアンケート調査を行った。学生の実習に対する自己評価、保育における音楽活動の実際などについて明らかにし、実習と音楽とのかかわりに焦点をあて、今後の実習指導や音楽実技・理論指導のあり方を検討する基礎的な資料としたい。

III. 調査

調査時期、調査対象及びアンケート内容

①1999年5月本学の幼児教育学科2年生、2月に『幼稚園実習Ⅰ』を行い、科目「幼児音楽」を履修した学生118名に対して調査を行った。有効回答数は110名である。

アンケートの内容項目は音楽に対する自己評価として、「今までの鍵盤楽器の経験」、「一年間のピアノ実技進捗」、「習得した幼児歌曲の弾き歌い」などである。実習に対する自己評価としては、「事前の教材の準備」、「実習において注意や指摘されたこと」、「音楽活動における困った点」などである。

②1999年7月本学の幼児教育学科2年生、2月に『幼稚園実習Ⅰ』、5月に『幼稚園実習Ⅱ』を行い、科目「幼児音楽」を履修した学生118名に対して調査を行った。有効回答数は84名である。

保育者養成における音楽指導の一考察

アンケートの内容項目は、幼稚園実習を实际経験した結果の自己評価である。「実習を受けた感想」、「保育者像・子ども像」、「実習を通して学んだこと」、「事前の教材準備」、「保育における音楽活動の实际」、「実習園から出された課題」、など実習と音楽活動とのかかわりを中心に調査した。

さらに「後輩へのアドバイス」や「幼稚園の就職希望」なども含め、学生が実習から得た成果と今後の課題などを取り上げることにより、実習指導や音楽指導に生かす内容項目として上げた。

IV. 結果・考察

1. 幼稚園実習における園児の姿と実習後の保育者像について

実習生が2回の実習をとおして感じた園児と保育者の関係及び保育者のあり方についてアンケート調査をし、その結果から園児の姿（5項目）、保育者像（4項目）に分けてまとめた。

1) 実習生から見た園児の姿（表1 参照）

年少は落ち着きがなく活動も乏しく、甘えん坊で保育者に頼りがちである。年中は落ち着きがないものの、活動が行動的になり集団で遊べるようになるが、喜怒哀楽が激しく、自己主張や喧嘩も出てくる。年長は落ち着いた行動が見られるようになり、遊びのルールが出来てくる。また、他人や保育者の話にも耳を傾けることが出来るようになる。

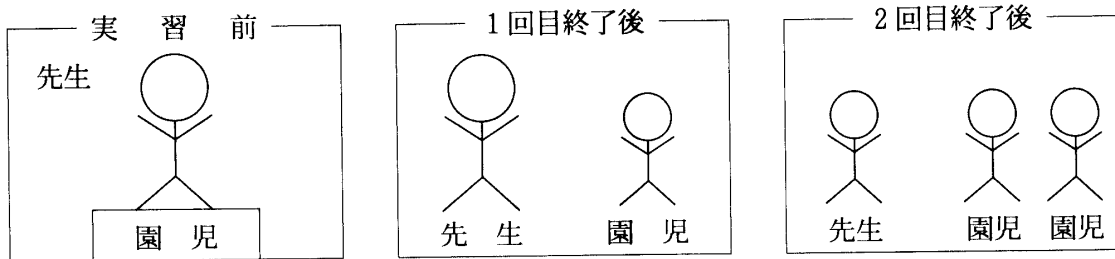
実習生は子どもと生活することで身近な行動から言葉の成長、心の変化までも感じ取っている事がわかる。実習をとおして、子どもとはどのような成長をするのかをある程度理解したと思われる。

2) 幼稚園実習をとおして感じた保育者像（表2 参照）

学生の思う保育者像は、実習経験を重ねる事で相当の変化が見られる。実習前は「やさしい人」「明るい人」「叱らない人」「第二の母親」など表面的・外見的に捉えられている。

1回目の実習終了後は実習前の「やさしい人」から「やさしいばかりではいけない」、「明るい人」から「明るい態度と笑顔で園児全体が見られる」、「叱らない人」は「誉める事の大切さが解かっている」、「第二の母親」は「子どもの信頼関係を大切にする」など実習前と比較すると、その視点は子どもに対して愛情を持った援助的な存在に移っている。

2回目の実習終了後は「保育全体の流れを見る事ができる」「子どもの心を読み取りながら、良い事と悪い事を教える」「子どもと同じ目線に立ち子どもから学ぶ心を持つ」など、保育全体の流れの中における子どもとのかかわりを重要視し、「親代わりではなく親から離れていけるように援助する」と言うように保育者はこうあるべきだという保育者像に移っている。



上図は実習生が見た先生と園児(子ども)の関係を表したものである。実習前には先生と園児が主従関係のように見えたものが、1回目終了後は姉妹(兄弟)のような関係となり、2回目終了後では友達関係のように同じ目の高さになっている。

このことから保育者は、園児と同じ目の高さに立つことから保育が始まるという事に気づいていることがわかった。

2. 幼稚園実習の成果について

実習をとおして、その成果をアンケート結果からまとめ、その中で音楽と実習の関連について考察を試みた。

1) 実習を経験してよかった点、驚いた点(表3、表4 参照)

学生が実習経験をした事によって、「保育者」という仕事が当初想像していた事よりもはるかに大変な仕事であり、予想外な行動をする子どもと常に接していなければならない難しさがあるということに戸惑いを感じているようである。

しかし保育者と園児とのふれあいをとおして、逆に「やる気」と「すばらしい仕事」であることを実感し、就職という人生の選択に当たって「保育者」という職業に対する前向きな姿勢も見えている。

アンケートの中には、音楽と結びつくと思われる意見が幾つか出ていた。

- イ、「子どもとのかかわり、コミュニケーションの取り方、遊び方など大変勉強になった」
- ロ、「童謡、手遊びなどもっと勉強しなければいけない事があった」
- ハ、「子どもの成長期で一番大切な時期である」

これらの項目から音楽は、園児と触れ合うきっかけ作りや、効果的なコミュニケーション手段としてかかわり合えることができると考えられる。

2) 実習において幼稚園教諭から学んだ事(表5 参照)

実習生は、現場でのよりよい環境作りから保育の準備、子どものほめ方、叱り方などさまざまなことを学んでいる。ここでは、音楽とかかわりがあると思われる項目を見てみた。

- イ、「保育者が楽しくなければ、子どもは楽しくない」
- ロ、「保育者の笑顔は、子どもに安心感を与える」
- ハ、「子どもが飽きない工夫が必要である」

ニ.「声の大きさにも表現力がある」

ホ.「教材研究の進め方（紙芝居、絵本）」

これらの項目から、実習においてキーワード「笑顔・楽しさ」を増幅させ、「飽き」がこない環境を整えるために、音楽又は童謡の弾き歌い・手遊びなどを用いることが非常に有益であり、効果が上がると言えるのではないだろうか。

3) 幼稚園への就職に対する思い

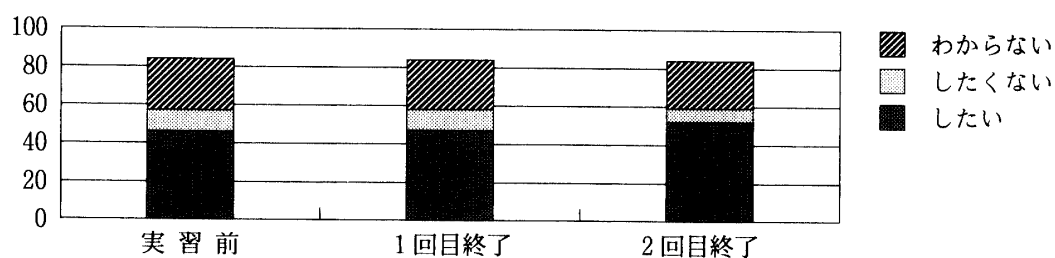
教育実習とは将来保育者になる者にとっては、生きた保育現場を知るとともにさまざまな経験を得るものである。学生の就職意識については、実習前、1回目終了、2回目終了と回を重ねる毎に増えている事から、実習の経験が生かされていると思われる。

就職したくない学生に関しても、実習回数を重ねる毎に減少している。分からない学生に関しても若干ながら回を重ねる毎に減少している。

このようなことから実習経験は保育者の仕事の内容、役割、子どもとのかかわり方など学生なりに理解でき、良い結果で終了していることが数値の上でも言える。

幼稚園への就職希望

(名)	実習前	1回目終了	2回目終了
したい	46	47	52
したくない	11	11	7
わからない	27	26	25



3. 幼稚園実習にむけての音楽教材について（表9、表10 参照）

実習中、大学の授業で役だった事に手遊び、ピアノ実技、童謡の弾き歌いがきわめて多い。また、大学の授業で足りなかった点を見ても同じ事があげられている。さらに、実習後の要望の中でも同様のことがあげられる。これらの結果から、実習をする中で子どもとの一番のかかわりは、「表現」の中の音楽分野がひとつのきっかけとなっている事がわかる。

また、学生にとっては子どもとかかわるための一番身近な導入方法であると思われる。学生は、後輩へのアドバイスの中で「ピアノが弾ける事、手遊び、紙芝居、幼児歌曲の弾き歌い」など、領域「表現」の中での音楽をより多く学ぶ事を勧めている。

このような結果から、保育の中では音楽活動が大切なきっかけとなり展開されて行くものと思われる。

養成校としては2年間で、ピアノ実技能力と保育実践の場ですぐに役立つ童謡・手遊びをどれだけ修得させるかである。

ピアノ実技能力については、ピアノ進捗調査によってある程度推測される。その進捗はピアノ初心者でも約70%の者が入学後1年足らずで[バイエル後半～ツェルニー30番始め]のレベルに達していることがわかる。保育実践の場で役立つ幼児歌曲は、とりあえずこのピアノレベルで対応出来ると思われる。

指導者は、学生のピアノレベルに合わせた幼児歌曲を選曲する事が大切である。また、課題曲にリズム、メロディー、速度などの完成度を要求するばかりではなく、その曲を幅広く利用し、子どもとのかかわり方、いろいろな表現方法に展開できるレッスン方法を考えなければならぬと思う。

表6 大学の授業で役だったと思われること。

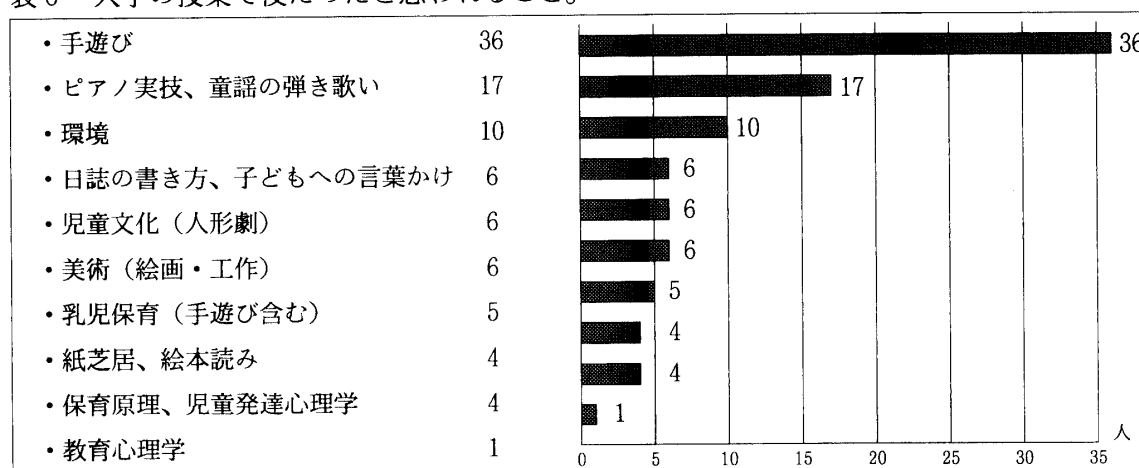
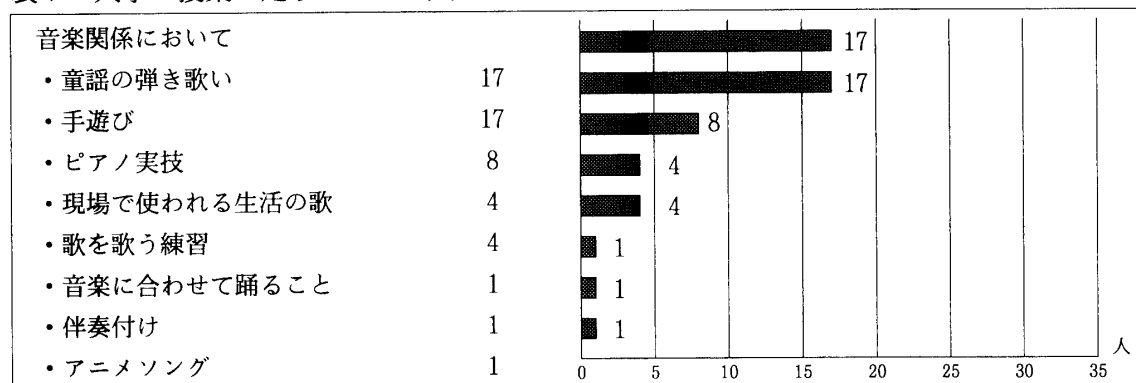


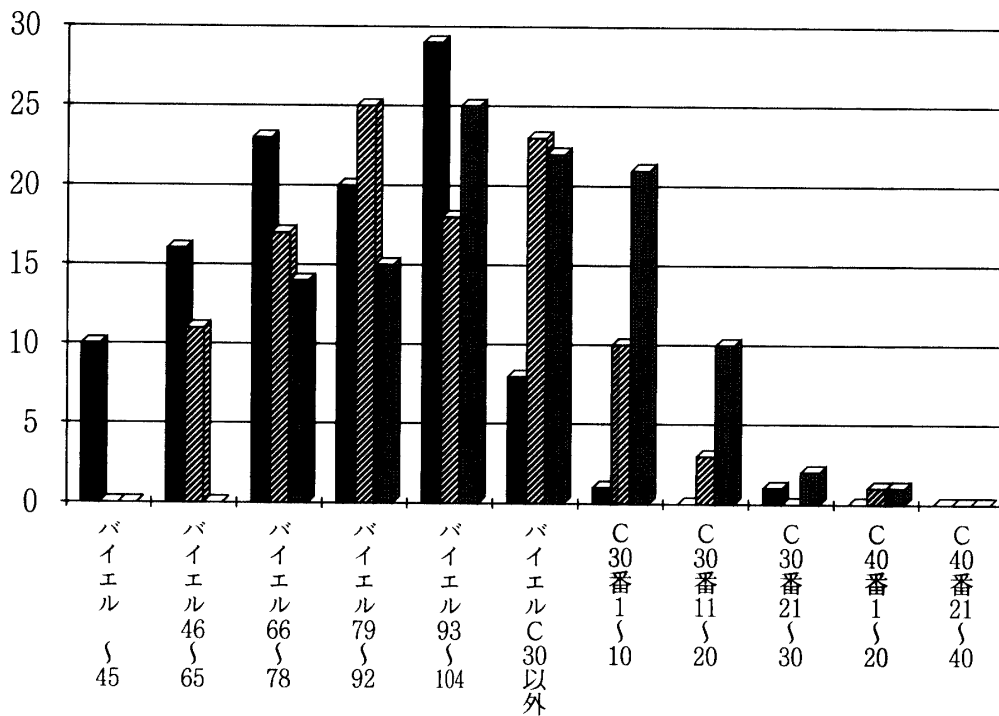
表7 大学の授業で足りなかった点



保育者養成における音楽指導の一考察

表8 平成10年度入学生のピアノ進度

	1年次4月(人)	1年次9月(人)	1年次2月(人)
バイエル ～ 45	10	0	0
バイエル 46～ 65	16	11	0
バイエル 66～ 78	23	17	14
バイエル 79～ 92	20	25	15
バイエル 93～104	29	18	25
バイエルC30以外	8	23	22
C30番1～10	1	10	21
C30番11～20	0	3	10
C30番21～30	1	0	2
C40番1～20	0	1	1
C40番21～40	0	0	0
	108	108	110



4. 保育と音楽指導の関連について (表14、15、16、17 参照)

学生は幼稚園実習にむけて、ひとつの教材準備として童謡の弾き歌いに取り組む。本学は学生に1年間に幼児歌曲10曲を自由選択により修得させるよう指導している。

学生が自由選択である幼児歌曲をどのような理由で選曲しているのかを調査し、分類を試みた。また2度の幼稚園実習終了後に現場ではどのような幼児歌曲の弾き歌いが必要とされていたのかを調査し分類を試みた。

この結果からわかるように9割近くの学生が「聞いた事がある」「簡単だから」という安易な理由で選曲していることがわかる。また、幼児歌曲の分類は「動物の歌29%」「歌遊び17%」「いろいろな歌、季節の歌、定例行事の歌12%」の順で結果が出た。

園側から要望する幼児歌曲は「生活の歌30%」「うた遊び10%」「定例行事の歌10%」の順で結果が出た。またここで「仏讃歌8%」とあるが、この仏讃歌は園では生活の歌として取り上げられていたものと思われる。

この結果から生活の歌は実習するにあたって大変重要である事が分かる。学生側は「動物の歌」、「うた遊び」など子どもと楽しもうという意識はあるが、園生活における基本的な「生活の歌」、「季節の歌」などへの意識は薄いように思われる。

以上のことから幼児歌曲の選択は学生に任せておくのではなく、指導者が保育と音楽のかかわりを理解し、事前実技指導における学生への選曲方法に意識付けをする必要があると感じる。

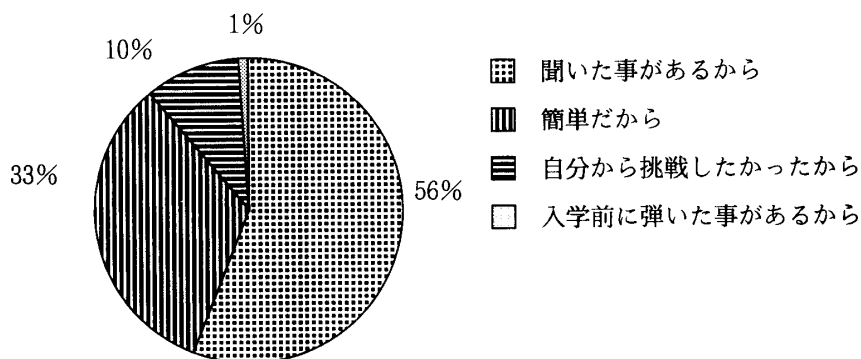
アンケート調査からも分かるように学生は1回目（1年次2月）の実習後に、音楽面で不足した点に「歌えない」「生活の歌が用意してない」「弾き歌いができない」「大きな声が出せない」などを取り上げ反省している。そして子どもとのかかわりの中では音楽活動の部分が大きいことを上げている。

表11 童謡は、自由選択としていますが、どのような選び方をしていますか。

・先生に選んでもらった。	1 人
・自分で選んだ。	109 人

自分で選んだ理由	人 数	比 率
・聞いた事があるから	91	56 %
・簡単だから	54	33 %
・自分から挑戦したかったから	16	10 %
・入学前に弾いた事があるから	2	1 %

童謡を自分で選択した理由



保育者養成における音楽指導の一考察

表12 学生が選んだ幼児歌曲の分類

記号	幼児歌曲の分類	曲数	比率
1	いろいろな歌	8	12%
2	季節の歌	8	12%
3	うたあそび	11	17%
4	生活の歌	7	11%
5	定例行事の歌	8	12%
6	アニメの歌	0	0%
7	乗り物の歌	0	0%
8	わらべ歌	1	2%
9	動物の歌	20	29%
10	子どもの夢の歌	3	5%
11	仏讃歌	0	0%

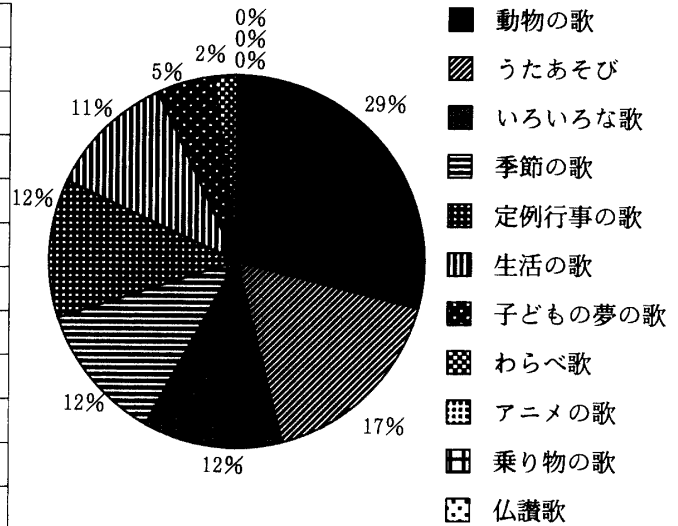
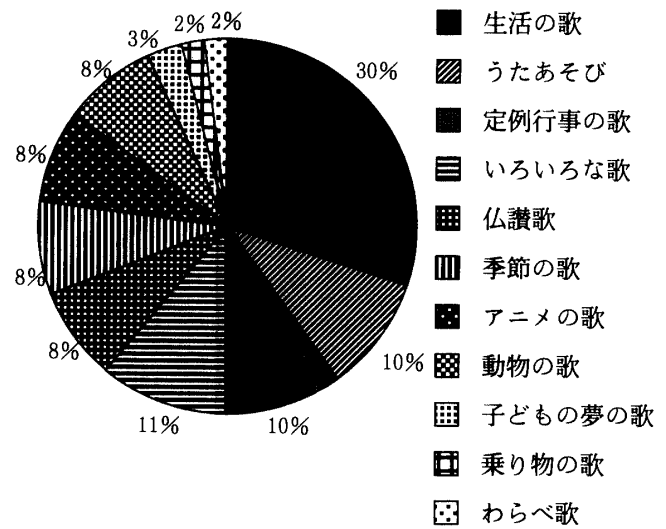


表13 園側から出された課題曲の分類

記号	幼児歌曲の分類	曲数	比率
1	いろいろな歌	7	11%
2	季節の歌	5	8%
3	うたあそび	7	10%
4	生活の歌	20	30%
5	定例行事の歌	7	10%
6	アニメの歌	5	8%
7	乗り物の歌	1	2%
8	わらべ歌	1	2%
9	動物の歌	5	8%
10	子どもの夢の歌	2	3%
11	仏讃歌	5	8%



課題曲ベスト5

曲名	曲数
帰りの歌	50
朝の歌 (おはようの歌)	46
お弁当	21
おむねをはりましょ	13
ほとけさま	12

音楽を指導する側は、ピアノがただ弾けるのではなく、楽しく歌う事もでき、保育の場に
応じた展開が出来る能力を養成しなければならないと考える。

また、幼児歌曲として「生活の歌」「行事の歌」「手遊びの歌」などをいち早く取り入れ、
少しでも余裕をもって実習に入れるよう指導しなければならない。

幼稚園実習にむかって、養成校での音楽指導は2年間でピアノに関する基礎技術を基に、
実践に役立つ内容の「幼児歌曲の弾き歌い」や保育現場ですぐに役立つ手遊び等、これらの
レパートリーをより多く修得させなければならないと感じる。

以上のことを踏まえて暫定的ではあるが、実習までに準備しておいた方が良いと思われる
童謡を選曲した。

基本的な生活の歌を5曲、1回目、2回目実習にむけて、生活・行事・季節・歌遊びの4
分野より5曲を選曲した。これらの課題曲は修得すべき最低限の曲数と考えていきたい。さら
に子どもと音楽を通じて楽しむ事が出来るような指導方法を探るとともに、子どもの音楽
感性を豊かにするきっかけ作りができる保育者の養成が指導者側の課題といえる。

表18 指導者側が修得させたい曲

基本的な生活の歌（1年次2月の実習迄）		
	・おはようの歌	
	・おかえりの歌	
	・おべんとうの歌	
	・はをみがきましょう	
	・おかたづけ	
	1年次2月実習（1回目）	2年次5月実習（2回目）
生活	・せんせいおともだち	・あくしゅでこんにちは
行事	・ひなまつり	・とけいのうた
季節	・一年生になったら ・おもいでアルバム	・かえるのうた ・ことりのうた
歌遊び	・ゲーチャキパーでなにつくろう	・トントントンひげじいさん

V. おわりに

今回の研究は幼稚園実習をとおして、実習と音楽とのかわりに焦点をあて今後の実習指導
や音楽指導のあり方を検討してきた。実習する意義、学生の実習に対する自己評価、保育現
場における音楽活動の実際と、大学における音楽指導とを比較検討することにより、魅力的な
期待される保育者養成としての指導のあり方を探った。

結果として、実習したことによりまた実習回数を重ねることにより園児の姿、保育者像、ま
た園児と保育者の関係や実習を経験してよかった点や驚いた点など保育者から数多く学んでい
る。このことは大学での授業内容をより具体的、実際的なものとして理解する反面、自己評価

保育者養成における音楽指導の一考察

にも見られるように保育に対しての技術・知識不足も考えていた以上に多く感じていることも見逃せない。

特に音楽関係に対しての技術・知識不足は我々指導者にとり真摯に受けとめなければならないと痛感する。ピアノ実技に対する指導、幼児歌曲の弾き歌いに対する指導、手遊びの指導など保育現場との連携も考慮にいれながら、より一層授業内容の充実を模索していく必要が出て来た。

今回は幼稚園実習をとおしての結果考察であった。今後は乳児保育や長時間保育など多様な保育形態を経験する保育所実習からの考察も必要となってくる。また環境をとおしての保育のあり方として、音楽環境に焦点をあて検討していきたい。

注

- 1) 調査研究協力者会議の最終報告「時代の変化に対応した今後の幼稚園教育のあり方について」(1997年11月)

参考文献

- | | | | |
|-----------|----------------|---------|------|
| 飯田秀・武田道子編 | 21世紀に翔く子どもの歌百科 | 全音楽譜出版社 | 1991 |
| 松中久儀・楠景二編 | 幼児保育の歌とリズム | 音楽の友社 | 1994 |
| 小林美実編 | 子どもの歌200 | チャイルド社 | 1997 |

表1 実習生から見た園児の姿

	年 少	年 中	年 長
1. 生活 行動 遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレが自分でできない ・甘えん坊 ・赤ちゃんばい ・活動が乏しい ・部屋から余り出ない ・基本的な生活習慣が身についていない ・給食に時間がかかる ・着替えが出来ない ・わががままがでる 	<ul style="list-style-type: none"> ・おんぶ等のスキンシップを求める ・自分のことが序々に出来る ・落ち着きは無いが行動的 ・いたずらが多くなる ・自分の事は、自分でやろうとする ・年少さんにやさしさが出てくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で遊べる ・下の子の面倒が見られる ・落ち着いた行動がみられる ・一日の生活の流れが解かる ・外で遊ぶ時間が多い ・身の回りの事が出来るようになる ・遊びのルールが高度になる
2. 言葉 表現	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がはっきりしない ・よく泣く ・赤ちゃん言葉が残る 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本などを読んでもらいたい ・「みて、みて」の言葉が多い ・言葉が悪くなる ・幼児返りをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・人前で話すことが出来る ・楽器ができるようになる ・理解力、表現力がついてくる ・自分なりの話が出来ると ・大人びた言葉遣いが多くなる ・子ども言葉からの脱皮 ・難しい言葉を使うようになる
3. 心の変化 (精神面)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の世界しかない ・自己中心的 ・早・遅生まれの差がある ・人見知りがある ・落ち着きが無い 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己主張が出てくる ・喜怒哀楽が激しい ・個性が出て来る ・誉めてほしいという期待感が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の子どもへの気遣いが出てくる ・他人の言うことが聞ける ・自立心が出てくる ・他人への思いやりが出てくる ・小学生になるという実感が出てくる ・男子同士、女子同士に分れる ・競争心が出てくる
4. クラス グループ (友達)		<ul style="list-style-type: none"> ・友達同士の喧嘩が見られる ・「ごっこ」遊びが出て来る ・グループが出て来る ・集団で遊べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループが出来てくる ・リーダー的存在の子が出てくる ・クラスのまとまりが出てくる
5. 保護	<ul style="list-style-type: none"> ・母親がいないと駄目 ・何をしても保育者が必要 ・保育者=母親と思いがち 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者になつく 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の指示が聞ける ・保育者も頼れる面がでてくる

保育者養成における音楽指導の一考察

表2 幼稚園実習を通して感じた保育者像

	実習前	1回目終了	2回目終了
1. 性格 (イメージ)	<ul style="list-style-type: none"> • やさしい人 • 明るい人 • ほのぼのとした人 • 笑顔のある人 • 園児に信頼される人 • 楽しい人 • 楽しく遊べる人 • 叱らない人 • 園児を理解できる人 • 園児と仲良く出きる人 • 朗らかな人 • いつも元気な人 • 子供を引っ張っていく人 • 第二の母親のような人 • お姉さんのような人 	<ul style="list-style-type: none"> • 母親的な存在 	
2. 体力		<ul style="list-style-type: none"> • 自分の体調はいつも整えられている 	<ul style="list-style-type: none"> • 体力が必要である
3. 知識		<ul style="list-style-type: none"> • 叱る、誉めるのけじめをつける人 • 誉めて、育てられる人 • 手を貸すのではなく気持ち大切にする • どんな場面でも言葉がけをする • 常に子どもの気持ち进行、ともに行動する • 時と場合を考え状況判断が出きる • やさしいばかりではいけない • 子どもとの信頼関係を大切にする • 時には、厳しさをもち、持っている • 園児が出きる事には、手を出さない • 誉めることの大切さが、解かっている • 子どもとともに、喜び、悲しみが分り合える 	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの言葉を大切に受け取る • 子ども的心を讀取りながら良い事、悪い事を教える • 工夫のある保育が出きる • 子どもの変化に、いち早く気づき対処する • 冷静な判断力を持つ • 子どもと同じ目線立ち子どもから学ぶ心をもつ • かわいそうで、許すのは良くない • 子どもへの観察力は、いつも安定している
4. 行動 (指導力) (リーダーシップ)		<ul style="list-style-type: none"> • 子ども一人一人を理解する • 心と心がぶつかり合うことが出来る • 明るい態度と笑顔で園児全体がみられる • 子どもの行動が読み取れる • 子どもが、納得する対応が身につけている • 落ち着いて、判断が出来る 	<ul style="list-style-type: none"> • 保育全体の流れを見る事が出来る • 子ども一人一人に適切な対応が出来る • 子どもには、平等に接し全員と楽しめる • いけない事の説明ができ、子どもとともに考える • 親との連携を絶えず持ち信頼し合える • 時には、見守るという大きな心を持つ • 親代わりではなく、親から離れられるように援助する • 誉める時、叱るとき、ともに真剣である • 感情で流されることなく先の見える人 • 親の元へ返すまで責任がもてる

表3 実習を経験してよかった点

<ul style="list-style-type: none"> ・実習を経験した事で一般職を考えていたが、これからもっと勉強してこの職業につきたい。 ・指導案を書いて、保育をすることの難しさを感じた。 ・実習を経験して、毎日の生活の中で子どもに目がいくようになった。 ・保育をする喜び、難しさを感じた。 ・現場の先生とのふれあいが良い経験となった。 ・子どもとのかかわり、コミュニケーションの取り方、遊び方など大変勉強になった。 ・子どもの反応が、生で感じる事が出来、感動した。 ・失敗ばかりであったが、前進できると気づいた。 ・思っていたより大変な仕事ではあるが、子どもと接する楽しさが、実感できた。 ・頭で考えているより、現場を経験する事はとても大切だと思った。 ・子どもの立場に立つ事の難しさを経験した。 ・現場の先生や、子ども達から教えられる事が多く、勉強になった。 ・この職業につくの迷っていたが、実習をしてすばらしい職業だと思った。 ・大学での講義で学ぶことより、実習を体験する事によって前向きな気持ちになった。 ・実習をして、自分の考えが甘いと思った。やる気が出た。 ・子ども達と接するという事は、毎日が勉強である。 ・「子どもは、かわいい」という気持ちだけでは、保育は出来ない。 ・子どもとかかわる中で、自分の長所・短所が見つけられた。 ・実習は、子どもとの一番のふれあいの場であり、生きた勉強の場である。 ・保育者の仕事が、理解できた。 ・保育者の大切さを、肌で感じる事ができた。 ・園生活の楽しさを知った。 ・自分の夢が、実習を通して大きく前進した。 ・保育者は、体力が必要であり、また心身が健康でなければいけない。 ・頭で思っているより、行動でぶつかる事が必要である。 ・実習の回数を重ねる事で、自分の進む道が見え始めた。 ・実習を通して、自分の思っていた「子ども」とは違う面を多くみつける事ができた。 ・大学の講義は、一方通行であるが、現場はいつも動いている講義である。 ・童謡、手遊びなど、もっと勉強しなければいけない事があると思った。 ・子どもの世界を体験出来、今後の勉強に前向きになった。
--

表4 実習を経験して驚いた点

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが、自分を助けてくれた。 ・思っていたより、子どもの発達が進んでいる。 ・子どもとかかわる以上に他にも仕事がある。 ・幼稚園は、時間に追われている ・先生たちのつながりが深い。 ・年齢の差がある。 ・実習を経験して、自分の意気込みの変化。 ・子どもは、予想外の行動をする。 ・個性が違う子どもを保育することは、大変であるがやりがいのある職業である。 ・保育者の指導で、子どもは、ずいぶん変わる。 ・子どもの成長期で一番大切な時期である。 ・子どもの遊びは随分変化してきている。 ・指導案通りには行かない。 ・保育者が子どもを見ているように子どもも保育者を見ている。 ・子どもが好きだからでは、なれない職業である。 ・子どもの成長は早い。

保育者養成における音楽指導の一考察

表5 幼稚園の指導教員からどのようなことを教えてもらいましたか（具体的に）

- 子どもの誉め方、しかり方、注意の仕方
- 指導案の作り方
- 保育者が楽しくなければ、子どもは楽しくない
- 子どもの話は、最後まで聞いてやる
- 子どもに関することは、どんな小さな事柄でも連絡、報告を怠らない
- 子どもの関心を引くには、どのようにしたらよいかを絶えず考える
- 子ども同士のけんかにたいしての援助方法
- 応急処置の方法
- 教材研究の進め方（紙芝居、絵本）
- クラス全体のまとめ方
- 失敗は、失敗ではなく経験である
- 3歳時は、基本的生活習慣を身につける時期である
- 子ども一人一人の性格、特徴を早くつかむ
- 保育をしている保育者も楽しいと感じる事である
- 外見で判断するのではなく、中身をより多く理解する事である
- 保育者の笑顔は、子どもに安心感を与える
- 言葉がけの大切さ、子どもは、いつも主役である
- 子どもを叱ったあとは、ホローが大切である
- 子どもは、予想外の行動を起こすものである
- 保育者の不安は、子どもへも伝わる
- 子どもの自主性を重んじ、誉めて育てることを忘れてはいけない
- 子どもがあきない工夫が必要である
- 子どもから学ぶことがたくさんある
- 何事にも、子どもの目の高さで接し、援助の中にもけじめをつける
- 声の大きさにも、表現力がある
- 保育者は、失敗を恐れず、自ら子どもの中に入って行くことが大切である
- 子どもの言葉は、大切に受け止めてやる。得につぶやきをしっかりと聞く
- 活発な子どもだけでなく、消極的な子どもにも目を向ける
- 同じ言葉がけでも、子ども一人一人の受け止め方は違う
- 子どもには、やってあげるのではなく、やり方を教える
- 良い環境作りは、保育者自身の健康維持と体力作りが基盤
- 子どもの良い所をまずみてやる
- 保育の準備は、終了と言う言葉がない
- 生き物の命の大切さを幼児期に教える
- 子どもが「聞いてくれる」という表現力を養う
- 子どもが何事も一人でやってみようという気持ちを引き出す
- 子どもの気持ちをまず優先してやってから話をする

表9 後輩へのアドバイス

短大での勉強	生活面	マナー
<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノが弾ける事（子どもがついてくる） ・手遊びは、多く覚えておく ・紙芝居、絵本の読み方の練習 ・表現では、音楽のウエイトが大きい ・幼児歌曲を歌う練習が必要 ・童謡は、早いうちから取りかかる ・子どもの病気、怪我などの対応の仕方も覚えておく ・日頃から、友達同士でピアノを弾いたり手遊びなどをする ・指導案の書き方や手遊びは、前もってよく勉強しておく ・実習に関する疑問は、先生に必ず聞く ・ピアノは、楽しんで弾けると良い ・目標を持って、何事も取り組む ・実習に向かって、何か得意とするものを作っておく ・ピアノが弾けなくても、逃げてはいけない ・講義中の先生の話はメモを取ると良い ・実習に向けて自分なりのノートを作ると良い ・子どもが興味ある遊びは日頃から集めておく ・ピアノは毎日少しでも練習すると楽しくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活がいい加減だと実習で苦労する ・自分の健康管理が出来ること ・2年間の生活を大切に（ずる休みしない） ・自分自身の習慣付けをする ・めりはりのある生活をつとめて送る ・普段から子どもを観察する目をもつ ・実習は、体力が必要である。日頃から規則正しい生活をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から当たり前のことをやる ・挨拶は、しっかりする ・大学内でも目上の人には敬語を使う ・言葉使いには、注意を払う ・今風、短縮した流行言葉は、使わない ・常識、非常識の区別が出来る ・時間厳守は日頃の生活習慣から養われる

保育者養成における音楽指導の一考察

表10 「表現」の中の音楽分野は実習の中でどのようなかかわりがありますか。

<p>あなたが思うかかわり方を書いて下さい。</p> <ul style="list-style-type: none">• 子どもの身近な所には音楽が必ずかかっている。• 体操と音楽（身体を動かす時には音楽が必ずある）• 子どもは音楽の中で色々学んでいる事が多い。（次への行動の導入としてのかかわり）• 園生活のパターンはまず音楽で決まる。• 行動の中でのかかわり方は音楽領域が大である。• 子どもの活動、お話の流れに沿った歌が歌える事が大切である。• 先生と子どもの間では必ず音（音楽）のかかわりがあるから、引き付けられる。• 遊びの中にも口ずさむ音楽（音）は自然に先生と子どもをなごませる。• 園生活の流れのけじめをつける方法には、必ず音楽がかかっている• 子どもをまとめる方法には必ず音楽がある。• 音楽のかかわり方は子どもの活動の始め、終わりに役立っている。• 言葉かけにも音楽がある。• 楽器が弾けなくても歌う音楽がある。楽器が無くても声がある。• 子どもの心を動かし、人の心も動かすかかわり方をしている。• 実習の中で子どもと触れ合う方法に音楽がある。• 踊る —— 音楽 —— うたう —— 音楽• 手遊びは音楽で包まれている感じで、そのまま子どもの世界へ入る。• ピアノで楽しめる事は、子どもにとってとても魅力的である。• 子どもの集中力の前後には音楽を導入できる。• 子どもたちは気分が良いと必ず歌を歌う。• 音楽は園児を落ち着かせたり、元気づけたり、慰めたりする、大切なものである。• 踊る音楽に関しては、上手に曲を聞いて踊るのではなく楽しく踊ればよい。• 手遊びでのかかわりが多い。• 一日の流れの中で、けじめの部分では音楽が導入されている。• 音楽のかかわり方は、園では上手に弾いたり歌ったりするのではなく、楽しむ事である。• ひとつの行動を起こす前後には音楽を導入する事が多い。• リズム体操が楽しめるためのかかわりがある。• 子どもの心の準備には、音楽の導入というかかわりがある。• 言葉で言うより、音楽で表現する方が子どもには何事も伝わる。
--

表14 1年間にレッスンで終了した幼児歌曲

分類	曲名	人数
1	どんぐりころころ	24
1	まつぼっくり	8
1	しずかなこはん	6
1	おどろろ楽しいポーレチケ	4
1	あまだれポットン	4
1	ポコポコたぬき	2
1	おはながわらった	2
1	水でっぼう	1
2	ちょうちょ	62
2	チューリップ	55
2	サンタクロース	7
2	あわてんぼうのサンタクロース	6
2	ジングルベル	4
2	ゆきのこぼろず	3
2	まめまき	1
2	こいのぼり	1
3	むすんでひらいて	72
3	手をたたきましよう	69
3	大きくなり木の木の下で	44
3	しゃぼん玉	20
3	しあわせなら手をたたこう	15
3	おもちゃのチャチャチャ	11
3	糸まき	11
3	ロンドン橋がおちる	8
3	10人のインディアン	3
3	すうじのうた	1
3	クラリネットこわしちゃった	1
4	おべんとう	11
4	おかたづけ	9
4	おかえりのうた	9
4	歯をみがきましよう	2
4	たき火	2
4	先生とおともだち	2
4	ゆりかごのうた	1
5	おもいでのアルバム	29
5	お正月	13
5	うれしいひなまつり	5
5	水あそび	4
5	たなばたさま	4
5	あく手でこんにちほ	3
5	とけいのうた	1
5	1年生になったら	1
8	げんこつ山のためきさん	1
9	ぶんぶんぶん	47
9	とんぼのめがね	47
9	こぎつね	42
9	かたつむり	22
9	ねこふんじやった	18
9	ゴリラのうた	15
9	めだかの学校	8
9	かえるのうた	8
9	ありさんのお話	7
9	山の音楽家	6
9	メリーさんのひつじ	6
9	いぬのおまわりさん	6
9	ぞうさん	5
9	もりのくまさん	3
9	シャベルでほい	3
9	気のいいアヒル	2
9	やぎさんゆうびん	1
9	森のくまさん	1
9	かわいいかくれんぼ	1
9	おつかいありさん	1
10	線路はつづくよどこまでも	4
10	おばけなんてないさ	2
10	ふしぎなポケット	1

幼児歌曲 計66曲

表15 園側から出された課題曲(幼児歌曲)

分類	曲名	曲数
1	ホホホのうた	2
1	サンサンサン	1
1	小さな世界	1
1	あるいていけば	1
1	世界中の子供たち	1
1	している	1
1	笑顔がかさなれば	1
2	かえるのうた	1
2	季節のうた	1
2	ゆきのこぼろず	1
2	ちょうちょ	1
2	ちゅうりっぷ	1
3	むすんでひらいて	5
3	あしぶみたんたん	4
3	手をたたきましよう	2
3	大型バスにのってます	1
3	ひげじいさん	1
3	あなたのお名前は	1
3	オニのパンツ	1
4	帰りの歌	50
4	朝の歌(おはようの歌)	46
4	お弁当	21
4	おむねをはりましょ	13
4	はみがきのうた	5
4	さようならの歌	3
4	先生とお友達	2
4	おならびのうた	2
4	どこでしょう	2
4	あくしゅでこんにちほ	2
4	おはじまりのうた	2
4	お名前とうた	1
4	アイスクリーム	1
4	あいさつのうた	1
4	おやつとうた	1
4	おててを合わせましよう	1
4	みていてね	1
4	グットバイ	1
4	ならびましよう	1
4	さようならのうた	1
5	とけいのうた	3
5	ひなまつり	3
5	父の日のうた	2
5	君たち今日から友達だい	1
5	たんじょうび	1
5	すてきなパパ	1
5	ドキドキの一年生	1
6	ミッキーマウス	1
6	トトロのうた	1
6	アンパンマンのうた	1
6	セーラームーンのうた	1
6	ドラえもののうた	1
7	ボートレース	7
8	さようならさんかく	1
9	こたりのうた	4
9	いぬのおまわりさん	2
9	かわいいかくれんぼ	1
9	メリーさんのひつじ	1
9	恋するニワトリ	1
10	ふしぎなポケット	1
10	宇宙人のテレパシー	1
11	ほとけさま	12
11	ののさま	6
11	おんどくさん	5
11	仏教のうた	1
11	かんのんさま	1

幼児歌曲(課題曲)計65曲

保育者養成における音楽指導の一考察

表16 1回目の実習を終えて、音楽面で不足した点(困った点) 1年次2月

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの顔を見てひけない ・歌えない ・大きい声でうたえない。はなせない。 ・童謡のレパートリーが少ない ・歌いながらピアノが弾けない ・紙芝居が大きな声で読めない ・季節の歌が用意してない ・手あそびの用意がしてなかった ・伴奏が弾けない ・ピアノを弾くのが精一杯で子どもの顔がみられない ・手遊びのレパートリーが少ない ・朝の歌、お帰りの歌が弾けない ・子どもと一緒に歌えない ・ピアノを間違えて途中でとまる ・自信のある手遊びがない ・歌が大きな声で歌えない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノをもっと弾いておかなければいけない ・お帰りの歌、お弁当の歌の準備がしてない ・子どもの喜びそうな歌を用意する ・季節の歌が準備してない ・童謡の歌詞をしっかりと覚える ・弾き歌いがうまくできない ・お始まり、お帰りの歌が弾けない ・歌を子どもに教えられない ・歌うのが恥ずかしいので、日頃から歌う ・子どもと合わせて歌えない ・歌う曲は、ある程度暗譜しておく ・メロディーは必ず弾ける ・言葉がけのタイミングがとれない ・子どもの顔を見ると緊張するから音楽面は暗譜する ・園児のテンポにあわせられない
--	---

表17 実習中に指摘された点 1年次2月園側から

<ul style="list-style-type: none"> ・前向きに子どもと話す ・日誌の書き方 ・紙芝居の読み方 ・明るく、やさしく、厳しく、けじめをしっかりとつける ・手遊びは、多く使う ・声が小さい ・大きな声を出す ・季節の歌を学んでおく ・ピアノのミスは、声でカバーする ・挨拶は、誰にでもする ・ピアノの練習は日頃からする ・子どもへは、いつも注意を払う ・ピアノは、間違えても止まらない ・メモばかり取らない 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な行動をとる ・行動は乱暴にならない ・子どもの目の高さで話す ・大きな声、小さな声の使い分け ・安全には気を配る ・失敗してもあきらめない ・甘いばかりでは、いけない ・わからないことは、どんどん聞く ・踊りなどは、恥ずかしがらない ・行動は、敏感に ・導入の仕方を考える ・わがままの子に振りまわされない ・実習生も子どもにとっては先生である。 ・時間の調整に手あそびを使う ・先生には、敬語を使う
---	---

資料1

幼児音楽を受講されるみなさんへアンケート

次にあげる点についてお答え下さい。

- ①入学する前に鍵盤楽器（ピアノ・オルガン・エレクトーン）の経験はありましたか。（ある・ない）
 あると答えた人は該当事期の欄に記号をつけて下さい。

※○－習い始めた時期 ×－やめた時期 △－再度始めた時期

幼稚園	小 学 校			中学校	高 校	大 学
	低学年	中学年	高学年			

- ②ピアノの進度について

	教材名	大学でのグレード
大学入学時（1年）4月	— 番	_____
9月	— 番	_____
2月	— 番	_____

- ③1年間にレッスンで終了した童謡を記入してください。

(_____)

個人のレパートリーとして弾ける童謡を記入して下さい。

(_____)

童謡は自由選択としていますが、どのような選び方をしていますか。

- ・先生に選んでもらった。
- ・自分で ⇨ ・簡単だから ・入学前に弾いたことがあるから
- ・聞いたことがあるから ・自分から挑戦したかったから

- ④童謡など自分流で伴奏付けが出来ますか。（出来る・出来ない）

出来ないと答えた人はどのような点で困っていますか。

(_____)

- ⑤実習では何才児を受け持ちましたか。 (才)

- ⑥2月に実習が2週間ありましたが、実習を終えて音楽面で不足（困った点）はありましたか。

あると答えた方はどんな点でも結構ですので詳しく記入して下さい。

[_____]

- ⑦今後、実習をするに当たりどのような事を準備した方が良いと思いますか。

・音楽面について (_____)

・その他 (_____)

- ⑧自分で用意した保育教材は何でしたか。

(_____)

- ⑨保育実習中に指摘された点は何でしたか。

(_____)

ありがとうございました。

保育者養成における音楽指導の一考察

資料2

実習を終えて

年 月 日

1. 幼稚園の就職について

記号：○したい ×したくない △わからない 空欄には具体的な気持ちを書いて下さい。

就職(意欲)	記号	実習前	記号	1回目終了	記号	2回目終了
したい						
したくない						
わからない						

2. 実習を経験してよかった点

実習を経験して驚いた点

3. 大学での授業で役立ったと思われることを書いて下さい。(具体的に)

4. 大学の授業で足りなかった点を上げて下さい。

一般科目 実習講義

音楽関係 その他

5. 大学での授業内容の中であなたが自分なりの要求があれば具体的に書いて下さい。

6. 幼稚園教員の仕事と思われることを書いて下さい。

園児の帰宅後	
保育の仕事	

7. 幼稚園の指導教員から、どのようなことを教えてもらいましたか。(具体的に)

8. 園児への印象を書いて下さい。

年少	
年中	
年長	

9. 後輩へのアドバイス

短大での勉強	
生活面	
マナー	

10. 実習を経験してあなた自身が思う保育者像を書いてください。

	実習する前	1回目(2月)の実習終了後	2回目(5月)の実習終了後
保育者像			

11. (表現)の中の音楽の分野は、実習の中でどのようなかかわりがありましたか。

あなたが、思うかかわり方を書いて下さい。

12. 音楽について…

園側から出された課題曲(練習しておいてほしい曲)を書いて下さい。

13. 手遊び、指遊び、パネルシアター……などについて

園側から出された課題、あるいは指導を書いて下さい。

作成する物も含む

ありがとうございました。